

重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】
重点課題	1 組織的な授業研究の取り組みと授業評価の活用	2 自主的な学習計画の作成と適切な家庭学習時間の確保
現状	<ul style="list-style-type: none"> 年1回の研究授業と年2回の公開授業を、各教科で実施している。 授業評価を実施し、指導の参考にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間が十分に確保できていない。 長期休業前には、課題の提示を早め、学習計画は立案させているが不十分である。
達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や公開授業を通して指導法を研究し、その後の授業に活かす。 生徒の授業および土曜講習の満足度100% 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間を確保し、平日「学年+2」、休日「平日+3」を目指す。 長期休業中の平均学習時間6時間
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や公開授業に積極的に参加したり、授業評価を参考に分析し、より質の高い授業を目指す。 習熟度別授業（数学）において、学力増進のための習熟度別編成をし、各クラスに応じた授業を実施する。 シラバスを基に学習の動機付けを図る。 土曜講習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を明確にした的確な面談を適時行う。特に、学習実態調査や学習時間記録を基にした指導を充実させる。 教科ガイダンスを充実させ、教科外活動との両立をさせる。 長期休業中の課題の質および量の適正化を図る。 長期休業の事前の計画立案の面談指導や事後の計画実施状況を基にした面談指導を充実させる。
評価	<p>栃高評価：生徒60%(61)保護者75%(81) / 栃高評価：生徒71%(74)保護者57%(57)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業や公開授業を通して指導法の研究を行い、その後の授業に活かした（教科差、個人差あり）。 授業は80%以上の生徒が総合的に満足している（が、家庭学習時間は不十分）。 土曜講習は60%の生徒が充実したものとなっている。 	<p>栃高評価：生徒76%(81)保護者95%(89) / 栃高評価：生徒71%(71)保護者91%(91) /</p> <p>学習実態調査：</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や意義を明確にし、学習計画表や学習時間記録をもとに面談は実施できたが、学習時間の実質的な確保と増加に結びついていない。 長期休業中の課題について、その内容調整や提示時期の適切化は実施できたが、家庭学習時間6時間に達していない。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に丁寧に向き合っている様子が見られる。 公開授業では外に向かってしつたりアピールする必要性を感じる。また、通学区域の変化など時代の流れにしっかりと対応していくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 帰宅時間の非常に遅い生徒が見られるが、塾利用の生徒の割合を知りたい。（ほとんど自習室利用だが5割弱である） 「100%与える授業」ではなく、自分でしっかり考えさせる授業が大切である。・自学自習の習慣の確立が大切ではないか。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 指導法の研究や、その後の授業への活用について、情報交換や検証をする。 公開授業への積極的な参加。他に、中学校の先生や保護者の参観について（実施の方向で）検討する。 生徒が満足し意味ある土曜講習と思えるような内容で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間の確保および増加に結びつくような授業展開や課題提示をする。 休日や長期休業中の生活について、部活動などを考慮した上で、学習時間確保に実質的につながる方策を検討する。 学習時間に関しては、恒常的に目標値に達していない。目標達成のための具体的な方策を学習指導部や学年を超えて組織的に立案していく。 生徒の帰宅時間調査などにより生徒の生活動向の実態を把握する必要がある。

重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し、各学年担当を中心に実施している。特に、キャリア教育係を中心に、大学・学部学科説明会や出張講義を実施し、キャリア教育の充実を図っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内模試データは進路指導委員会で活用しているが、各外部模試のデータ分析と生徒への直接の情報提供に関しては、各学年と教科に委ねられている。また、過去問題集等の進路資料室の資料は充実しつつあるが、利用環境は快適とはいえない。「興味・関心別おすすめ図書」の充実度も不十分である。 	
達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 一年次のキャリア講演会の新たな実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> すべての模擬試験に関する全教科・全学年における分析会の実施。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の指導資料のデータ化の完成。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習室における「興味・関心別おすすめ図書」の実現。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価 保護者・生徒ともに 80%以上満足。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価 保護者・生徒ともに 80%以上満足。 	B
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 一年次からのキャリア学習を充実させるため、その出発点として、働くことや探求することの意義を実感させるべく「キャリア講演会」を新設する。 各学年の取組みと使用資料を電子データで整理し、他学年の指導に供する。また、その情報を整理し、ノート化への準備を進める。 		<ul style="list-style-type: none"> 体制の強化を図り、恒常的な情報分析を行う。 各教科に対し、分析等の要望事項を提示し、教科会の活性化を促す。 「興味・関心別おすすめ図書」21年度版を作成し、全書籍を購入の上、図書室だけではなく進路学習室でも利用できる環境を整える。 	
評価	栃高評価 : 生徒78%(79)保護者93%(91) <ul style="list-style-type: none"> 新規に、一年生向けのキャリア講演会を二回実施。進路学習のスタートとしての、基底的な進路意識の醸成が図られた。指導資料のデータ化は、データの収集・分析の途上である。 		栃高評価 : 生徒76%(80)保護者92%(90) <ul style="list-style-type: none"> 「興味・関心別おすすめ図書」21年度版のうち、新書など約250冊を別途購入。進路学習室でも利用できるようになった。模試分析については、制度化が不十分であり各教科間の取組みの温度差解消は進まなかった。 	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 将来をしっかりと見据えたキャリア教育が重要であり、きちんと取り組んでいるようである。 かつての栃高を知る者としては、三年間を見通した進路指導の計画ができていていると感じている。 		<ul style="list-style-type: none"> かつては、教科サイドでの話し合う時間がしっかりと取れていた。学年主導も大切だが、教科分析会のように教科で深く掘り下げていかないと、結局は指導力向上に結びついていかないとと思う。 	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の指導資料データを活用し、三年間を見通した指導資料として組み替えるとともに、生徒の進路学習の手引きとして学習資料化する。 		<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部からの働きかけを強化し、模擬試験に関する教科分析会を充実させ、日常の学習指導に円滑にフィードバックするための体制をつくる。 	

重点目標	d 読書量向上への指導の実践 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】		
重点課題	5 効果的な読書指導の実施	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成		
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・教科、学習部、進路部などのご協力のおかげで、前年度は貸し出し図書数が大幅に伸びた。しかしまだ読書奨励が十分ではないため、効果的な読書指導がなお途上段階である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣に関する指導計画を作成し当該教科、保健室中心に直接指導している。 ・昨年で学校カウンセラーとの契約が切れたため、教育相談係が中心となって不登校生徒の対応に当たっている。 		
達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量向上のための図書貸し出し数目標3000冊 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を抜く生徒ゼロを目指す。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数目標延べ10,000人 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎日運動を継続している生徒が80%を目指す。 	A
			<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における長期欠席生徒の発生3名以下。 	B
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・図書貸し出しカードの作成・配布 ・各教科、生徒に対する読書購入希望調査(年2回) ・分野ごとの関係書籍の購入 ・「としょかんだより」(月1回)による各種図書の紹介 ・「リクエストコーナー」の充実 ・1年教室への推薦図書50冊設置継続 ・「多読賞」の周知徹底 ・旧食堂に書籍・閲覧コーナー設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、睡眠、運動等の指導内容を具体化する。 ・1年次の教科保健および保健室利用生徒等に健康的な生活習慣の重要性を指導し実践させる。 ・教育相談係・担任・保護者の連携を密にし、情報の共有、適切な対応に努める。 		
評価	<p>栃高評価：生徒64%(68)保護者66%(73) CASA集計結果：貸出数2556冊/入場者延数：6088人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在までのところ、達成目標 具体的な取り組みに関してはどちらもほぼ達成しつつある。ただ栃高評価の「授業や進路に関する書籍の紹介」のアンケート項目については、生徒保護者とも30%強がそう思っていない結果が出ているので、今後の課題と言えよう。 	<p>栃高評価：生徒42%(40)保護者71%(66) / 栃高評価：生徒43%(45)保護者69%(67)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食欠食生徒数は各クラス5%以内であるがゼロではないので良好とはいえない。週あたりの運動実践回数や運動実施時間は適当である。 ・来年度は正確なデータ(アンケート等)に基づく評価を実施したい。 ・3学年に3名を超える長期欠席生徒が発生した。 		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭の役割がますます重要になっていくのではないかと。 ・ホームページの推薦図書のデータがずいぶん古いものではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者の数は他校からみれば比較的少ない方かもしれない。 ・担任・保護者・係の連携を強化すること、そして早期に対応することが大切である。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教科で扱う題材に関する書籍のコーナーを設置し、一定期間閲覧室に展示する。 ・年度末の貸し出し数の目標を4000冊とする。 ・多目的ホールに書籍・閲覧コーナーを設置する。 ・CASA集計時期を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き朝食欠食生徒ゼロ、運動の継続といった健康的な生活習慣の実践を具体的に指導していきたい。また、次年度は正確なデータに基づくアンケートを実施する。 ・担任の面談や教育相談を通して、更なる不登校生徒の早期発見、早期対応を心がけたい。 ・担任・保護者・カウンセラー・関係機関との連携を強化していきたい。また教育相談における広報活動をより活性化していく。 		

重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 【特活】			
重点課題	7 充実した学校祭の企画と実施	8 充実した体験活動等の企画と実施		
現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会が主導して文化委員等生徒会組織を動かし、全員参加による学校祭を企画しているが、生徒の自主・自律性が十分に発揮されているとは言い難い。 文化的企画と娯楽的企画とのバランスが不十分である。 地域社会への事前のアピールが不十分である。 クラス・学年・学校全体の一体感を育てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 県庁堀清掃ボランティア(1年全員) 移動教室(1・2年希望者)(東京宿泊研修、史跡・東北大見学) 生徒会リーダー研修会(生徒会新役員・各部活動部長) 福祉講演会(全員) スキースノーボード教室(1・2年希望者) 豪州海外研修(1・2年希望者) = 2年連続で中止 		
達成目標 達成率 A: 達成できた。 B: 概ね達成できた。 C: 達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 入場者目標の延べ2000人(雨天時1500人) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室参加目標人数(東京宿泊研修40名、史跡・東北大見学80名、スキースノーボード教室 80名) 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 校内広報紙の毎月発行と参加団体代表者会議の毎月実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修・海外研修の紹介および参加募集 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 「文化講演会」を実現、入場者数 最大時200人と御聖蹟入場者目標の延べ200人の達成 	A		
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 第二生徒会室を整備、有効活用を指導し、機能強化を図る。 生徒実行委員会だけでなく、福祉国際理解委員会、図書委員会、進路係等の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。 近隣高校の学校祭を見学するなど、他校との連携を深める。 学校HPを活用し、学校祭プログラムを事前告知する。 学校全体の一体感を育てるために、後夜祭企画は内容をスリム化し、全学年参加型企画を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室においては、グループ方式による卒業生との懇談会を日程に組み込み、その魅力を十分に事前告知することにより、目標人数を達成する。 体験活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして当日に臨めるようにする。 福祉・国際理解分野の校外研修を精選・検討し、実現を図る。 生徒会執行部の他、美化委員会、福祉国際理解委員会等、関連する生徒会委員会を機能させる。 		
評価	<p>栃高評価 : 生徒72%(77)保護者80%(90) / 来場者数: 1750名()</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内広報紙・参加団体代表者会議は、三週間に一回のペースで発行・実施できた。 入場者のべ「文化講演会」280名、「御聖蹟」550名。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修・海外研修については、年度末に募集する。 東京研修参加者40名(希望者100名超)、史跡東北大研修参加者112名、スキースノーボード教室参加者89名。 東京研修、史跡東北大研修参加者アンケートによる満足度は90%超 		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会へのますますの浸透を是非図ってほしい。 応援団員が少ないようだが、栃高の大切な伝統だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京研修は非常にユニークで素晴らしい取り組みである。今後も期待したい。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域回覧板等を活用し、地域社会へますますの浸透を図る。 HP更新がやや遅れ気味であったことを反省し、HPを通じた事前告知に努力する。 より文化的な発表内容が生徒から自発的に企画・実現されるよう、職員間の連携をよく図り組織的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京研修は例年通り夏休み初日実施、募集枠を80名に拡大する。 校外研修・海外研修については、本校生のニーズに合った企画内容を検討し、事前準備事前指導の充実を図る。 進路部キャリア教育係、渉外部同窓会係との連携を図る。 		

重点目標	g 規範意識と自主性の向上 【生徒指導】			
重点課題	9 社会生活におけるルールの遵守とマナーの向上	10 集団生活における規範意識の向上		
現状	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全係の指導の下、生徒の交通安全委員会が中心となって徹底に努めている。 関係機関から送付される資料を基に、情報マナーの啓蒙に努めている。 			
達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 自転車運転中及び道路歩行中のヘッドフォン着用の撲滅。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 制服着用マナーの向上。(服装注意書発行枚数ゼロ) 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 自転車運転時の交差点及びT字路における一時停止遵守の徹底。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己管理の徹底。(校内における物品及び金銭の紛失ゼロ) 	A
	<ul style="list-style-type: none"> インターネットや携帯電話の使用に関する被害及び加害の発生件数ゼロ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内における携帯電話使用の全面禁止。(「全面禁止」の表現を再検討する) 	B
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 交通委員会を中心とした、生徒の自発的啓蒙活動を促す。 普段から全職員が協力して生徒の交通指導に努め、必要に応じて立哨指導を行う。 交通安全に関わる有効且つ実際的な情報の収集に努め、適宜生徒に提供する。 交通講話・LHR等を通して、生徒に生命尊重の意識を持たせるよう努める。 P T A 総会や支部会を通して、保護者に携帯電話の危険性を訴え、フィルタリングサービスの使用を強く促す。 インターネットや携帯電話のトラブルに関する情報の提供に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解を持ち、「その場で注意」を心がけて服装指導を行う。 服装のだらしない生徒には注意書を発行し、保護者にも注意を喚起する。 持ち物の管理を徹底させるとともに、様々な場面を通して、他者の権利を尊重する精神の醸成に努める。 生徒の校内における携帯電話使用に対する指導規定を定め、全職員が共通理解を持って、指導に努める。 	
評価	<p>栃高評価：生徒68%(79)保護者87%(80)</p> <ul style="list-style-type: none"> 街頭指導実施後の評価=自転車のヘッドホン着用者が減った。 交通無事故ゼロ連続日数65日 自転車運転中のヘッドフォン着用は以前より減ってきたが、歩行中の着用は相変わらず多い。交差点における一時停止については無視する生徒が多く、近隣住民からの苦情電話が数件あった。ネット関係のトラブルや事件は一件もなく、マナー向上や危険回避の呼びかけの効果があったと思われる。 		<p>栃高評価：生徒72%(76)保護者96%(85) / 栃高評価：生徒61%(47)保護者87%(70)</p> <ul style="list-style-type: none"> 著しく制服の着用が乱れている生徒は減ってきたと思われるが、学生服の第一ボタンを解放するなどの部分的な着崩しが目立つ。自転車や金銭盗難については報告された例はなく、所持品の管理についてはある程度徹底されてきたようである。携帯電話については、授業中に着信音を鳴らし、指導を受けた生徒が二桁に昇った。 	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 栃木市内の道路事情も変化し、一層きめ細やかな交通指導が求められる。 		<ul style="list-style-type: none"> 栃高生は何を背負っているのかを考えてほしい。その点が規範意識の拠り所である。栃高生らしさとは何かをきちんと考えさせてほしい。 	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 事故に遭うまで交通安全を自分の問題として考えられない生徒がほとんどであるので、本校生徒に起こった各事故の事例を検証し、何が問題であったかを明確にして生徒に周知する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 制服着用の乱れに関しては、生徒の意識にも問題はあるが、指導する職員側の共通理解や指導の一貫性にも問題があるとおもわれる。また、携帯電話に関しては、使用に不慣れな1年生の電源切り忘れやアラーム音が多く発生しており、指導の徹底が必要である。 	

重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み	【保健厚生】	i 広報活動の充実	【渉外】【教務】
重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活(学習)環境向上への取り組み。		1 2 家庭および地域社会への積極的な情報の発信	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミと資源の分別回収は概ねきちんとしてきているが、校舎外において一部不徹底がみられる。 ・生徒全員が分担区および月毎等目標設定を行い自主的に清掃活動を実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」を年2回発行している。 ・5月のPTA総会で、生活指導、進路指導の取り組みや現状について情報を提供している。 ・PTA評議員会を年4回開催し、進路関係を中心に適宜情報を提供している。 ・「校報」を年4回発行(6月、7月、10月、3月) ・中学校訪問用持参資料の作成 ・ホームページの定期的な更新 	
達成目標 達成率 A: 達成できた。 B: 概ね達成できた。 C: 達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化の推進(「推進」ではなく具体的な数値目標へ) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」の内容の充実 	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル運動(ペットボトルキャップ)の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」の内容の充実 	A
			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容の充実 	A
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会による清掃実施状況・用具点検の実施。 ・環境美化委員会を中心とした資源やごみリサイクル運動の推進。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」では、学校行事の実施状況の報告を主眼とするが、保護者の意見・感想も積極的に取り上げ、情報の双方向化を図る。 ・「PTA評議員会」において、進路指導、生徒指導、学習指導、保健厚生関係、さらには学年等、諸係と連携して、本校の教育活動に関する情報を多方面から提供する。 ・「校報」6月号に、本年度から昨年度の学校評価の結果を載せる。 ・ホームページの毎月更新作業の定着 	
評価	栃高評価 : 生徒60%(62)保護者97%(84) <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会によるごみ分別内容、ゴミ捨て場等のプリント作成、配布による減量化、リサイクルの啓発活動ができた ・ゴミ減量化への取り組みでは、ゴミの「計量」の徹底が不可欠である。 		栃高評価 : 生徒61%(61)保護者86%(86) <ul style="list-style-type: none"> ・9月に「PTAだより」77号を発行。支部会での質問、要望などを掲載。3月に78号発行の予定。 ・「PTA評議員会」では、進路情報など適宜提供できた。 ・校報を増頁して平成20年度学校評価のまとめを掲載した。 ・ホームページの定期(毎月)更新作業が定着できた。 	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・栃高の環境美化に対する取り組みは、来校者の立場からも実感できている。継続して取り組んでほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの立場として、栃高の情報提供は丁寧になされている。 ・今後も各種情報をさまざまな場で丁寧に説明していただきたい。 	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数値目標を設定しより一層の減量化、リサイクルを実践する。 ・ゴミの「計量」の徹底をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」の内容、構成など、さらに改善を図っていきたい。 ・「校報」は、行事予定表など他の資料と重複しているものがあり、内容面において検討していく。 ・生徒、保護者および地域の要望により一層答えられる情報提供を目指し、ホームページの内容の検討を図る。 	